

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.27 2015.10.30

グローバル人材育成事業 「明石塾」

塾14期生入

8月9日、明石塾14期生(21名)の入塾式が本学で行われました。

明石 康塾長式辞(抜粋)



今回入塾された塾生に心からおめでとうと申し上げます。今後8か月に渡り、週末を利用したかなり厳しい勉強が始まります。フランス語のノブレス・オブリージュというのは、優れた人にはそれなりの義務が伴うという意味の言葉ですが、これを肝に銘じてがんばって頂きたいと思います。世界がより密接に、より複雑になってきている現代では、国際的な常識や知恵を身に付けること、また国際語である英語の習得が大切になってきています。我が国は教育を大事にすることで近代化を達成したわけですが、今や外国語の習得、国際常識や知識の獲得においては、残念ながらアジアにおいても世界においても見劣りがしています。グローバル人材の必要性が叫ばれている中、このような状況を打開していかなければなりません。英語学習については、近道はなく自分なりの仕方コツコツと学ぶこと、時にはもうやめたいと思っても続けることが大事であると思います。英語力以外にも、皆さんに身に付けてほしい知識や知恵はたくさんあります。これからの日本を背負い、築き上げていくのは並大抵のことではありません。この8か月で達成できることは限られているかもしれませんが、大いに勉強してください。今やこの明石塾のことは県外にも知られ始めています。ごく最近も他県からの視察訪問がありましたし、関西のある私立大学からも関心が示されていると聞いています。このように注目を浴びているというのは、それだけこの塾できちんとした付加価値をつけるという事が行われているからだと思います。私たちすべてにとって、明石塾の生徒はホープである事を念頭において、一生懸命やってほしいと期待しています。

学長祝辞、塾生代表決意表明

続く学長祝辞では、本学の濱口富士雄学長が「英語学習では、言葉を十分に駆使できるような知性、教養を身に付け、単なる表面的な語学に終わらないことが大事です。明石塾では普通の高校生ではできない学びを経験していきます。その学びを我が学びとして、また日本社会、国際社会の中で生かして行ってください。私たち大学側もみなさんを全力でバックアップします。」と述べました。式の最後には、塾生を代表して高崎高校1年の石井蓮さんが「私が明石塾で学びたいことは、自己表現・意思疎通のための実用的な英語スキル、現在の国際情勢と世界における日本、世界の多様な文化と価値観についてです。私たちは将来の目標に向けて長く険しい道を歩くこととなりますが、その前にこの明石塾で貴重な体験を得られるというのは非常に光栄で有意義なことです。私たち塾生一同は、同じ志を持つ仲間と共に国際社会で渡り合う術を身に付けるべく真摯な姿勢で学びます。国際的な視野を持ち、国際舞台上で堂々と渡り合える人間になれるように精一杯努力したい。」と決意を述べました。



塾長講義 (抜粋)

今年は第2次世界大戦が終わった年からちょうど70周年にあたります。よく終戦から70年と言いますが、私ははっきりと敗戦から70年と言ったほうがいいと思います。日本は大変惨めな形でこの戦争に負けました。完璧な破壊の灰の中から、我々の父祖は一生懸命努力してこの国を今のところまで再建してきたわけです。戦争を心から反省し、平和を愛する民主主義国家として、日本は過去70年間懸命に努力をし、アジア、アフリカといった国々に対してもODAをはじめ様々な形で援助をするなど、平和への努力をしてきたわけです。

日本はこのことをきちんと世界に認めてもらえるようにしていくことが必要です。そのためには、相手国と対話の精神を持って胸襟を開いて話し合い、お互いが正確に理解しあうことが大切です。特に、相互に違う立場にいても、すぐに相手が間違っているとみなさずに、相手の言い分に耳を傾けるということが大事です。日本人は口下手でシャイだから、英語でも何でも駆使しもっと発信力を強めなくてははいけません、私が強調したいのは、同時に受信力も強めていかなければいけないということです。もちろんこちらにも考えていることや言い分はありますが、相手が本当に考えていること、心配していること、期待していることを正確にキャッチし、できれば相手の心のひだまで正確に理解できる鋭敏なアンテナを持つてくのではないかとということです。みなさんに言いたいのは、この受信力の方をむしろ大事にすることから始めたらどうかということです。異文化に対する理解も同じ事が言えると思います。日本文化を我々は大事にします。そのことにプライドを持ち、外国の人がきちんと理解できるように説明できることも大事です。しかし、相手も文化と歴史を持っているわけですから、相手の文化に対しても尊敬の念を払うべきです。どちらが上だということではなくて、お互いに平等な立場に立って相互に尊重しあい、その上に築き上げられるのが本物の平和ではないだろうかと思います。



しかし、軍備拡張を続ける国が存在し、民族紛争が絶えず、犯罪集団までも近代的な武器や兵器を持つようになって緊張感が高まっている現代では、平和の問題は大変複雑になってきています。このような状況の中、日本はもっと知恵を持ち、賢さ、英知をもって対処していかなければならないことが多くなってきています。日本の戦後平和主義は基本的に正しいと私は思っています。正しいけれども、ともすると内向きの平和主義になってしまうのではないとも感じています。平和な中立国のイメージの強いスイス

でさえも、相当の武器を持って自国の独立を守っています。世界の動向を考えた場合、節度ある軍事的抑止力は最小限持ちつつも、残りの面で知恵を働かせ外交をうまく使い、日本を理解し一緒に協力できる国を増やしていくことが大切ではないかと思います。例えば、加盟国すべてが1票の表決権を持っている国連での活動においては、小さく弱い国に対しても侮ることなしに国として尊重し、大きく力のある国は影響力が大きいですから、そういう国ともきちんとこちらの立場を理解させるという努力が不可欠です。そのためには日本だけの独善で物事を判断するのではなく、それぞれの国が複雑な問題や悩みを抱えている事情を酌み、細やかに配慮しながらこちらの見解も理解してもらい、お互いが協力しあえる関係を築くことが大切なのです。

ヨーロッパでは、犬猿の仲のように憎しみあってきた国々が平和に向けて努力をしています。例えば長年相争ってきたフランスとドイツでは、共通の歴史教科書を作るところまで進んでいます。これは驚くべき事です。同じようなことがアジアではあと何年経てば可能になるのでしょうか。皆さんが大人になるころには相互理解が相当進むことを希望していますが、しかしそれを前提として外交政策を打ち立てることはできません。あまりにもロマンチックに美しく国際政治を考えるのは危険です。もっと現実的な観点から考え、なおかつ平和主義、人道主義、民主主義を踏まえ、長期的視野を持って世界や日本が歩むべき道を模索していくことは難しいことです。どうしたらいいのか、なかなか答えは出ないと思います。しかし、少なくとも頭の片隅では、こういう問題があり、これを解決できたらどんなにいい世界をつくることができるだろう、よりよい日本をつくることができるだろうと、考えてみて欲しいと思います。



研修報告

明石塾では次のとおり研修を行いました。

日付	午前	午後
8月10日(月)	講義② 「英語の前置詞:ことばの意味をつかまえる」	講義③ 「日本とフランスー文学の交流ー」
8月11日(火)	英語研修1・2	講義④「デザイン思考ワークショップ」
8月12日(水)	英語研修3・4	英語研修5・6
8月13日(木)	英語研修7・8	講義⑤「美術を『学ぶ』ということ」
8月14日(金)	講義⑥ 「Learning sounds, connected speech and intonation in English」	講義⑦ 「上毛カルタで見直す群馬の姿」
8月15日(土)	英語研修9・10	英語研修11・12
8月21日(金)		県内フィールドワーク (サンデン・グローバルセンター)
9月5日(土)	英語研修13・14(公開授業)	夏休み研修まとめ、テーマ討論①
10月3日(土)	東京フィールドワーク(グローバルフェスタ、東京ジャーミイ)	



大学高校英語教育連携事業

伊勢崎高校、沼田女子高校、高崎経済大学附属高校の各高校と連携した英語研修が4年目を迎えました。研究所の外国人研究員を講師に、年3回の研修を通し、4技能の調和のとれた英語能力向上を目指す様々な活動に取り組みながら、思考力・表現力を磨き、論理的に英語でプレゼンテーションができる力をつけることを目標にしています。8、9月に行われた1回目の研修では、Show and Tell、Odd one outなどのコミュニケーション活動、効果的なプレゼンテーションについて実演を交えての講義、クイズ・ジェスチャーゲームなど、英語で発表する能力の素地を養う活動を行いました。



また、7月に高崎女子高校で開催された特別講座「グローバル・リーダー養成ワークショップ」では研究員が講師を務め、女子教育について英語でのディスカッションに挑戦しました。6月には中央中等教育学校2年生に対して多文化理解講座を行い、生徒は研究員と英語で交流しました。



県民英会話サロン「グローバルカフェ」

今年度第1期の「グローバルカフェ」は5月14日より7月30日まで毎週木曜日に行われ、幅広い年齢層の方々が英会話を楽しみました。7月23日の「カフェスペシャル」では、本学国際コミュニケーション学部の篠原愛さん、文学部英米文化学科の馬場静音さんが留学時の体験や感想を英語で発表しました。また中央中等教育学校講師のダグラス・エメットさんもゲストスピーカーとして親子で参加し、妖精・妖怪を題材に発表を行いました。発表者、参加者の皆さん御協力ありがとうございました。

第2期「グローバルカフェ」を以下のとおり開催します。事前の予約、準備は必要ありません。御希望の方は開催日に直接会場までお越しください。

日時：10月1日(木)～12月17日(木)

毎週木曜日18時30分～20時00分(全12回)

場所：高崎市総合福祉センター 3階会議室4

参加費：無料



留学支援事業

平成27年度群馬県観光親善学生大使委嘱状交付式

7月22日、本学の海外留学支援プログラムを利用し、長期及び短期で海外に留学する学生55名を対象に、群馬県観光親善学生大使委嘱状交付式が行われました。

委嘱を受けた学生は、留学先の大学やホームステイ先などで、群馬県の自然、文化、産業など群馬県の魅力をPRすることにより、本県への観光客誘致や国際親善に貢献します。濱口学長から激励の言葉を受け、学生代表の文学部英米文化学科3年の齊藤一葉さんは「富岡製糸場の世界遺産登録、ぐんまちゃんのゆるキャラグランプリ優勝などをはじめ、現在の群馬県には他の都道府県にはない魅力が多く溢れています。私たちの視点ややり方で外国の人たちに群馬をアピールしたい。」と述べました。



留学帰国報告

短期海外研修(語学留学) UCLランゲージセンター(イギリス)
文学部国文学科2年 M.I.



ロンドンへ短期留学をし、学んだことがいくつかある。

まずは自分の英語力の非力さを痛感したのだ。今回参加したコースでは、イタリア、中国からの生徒が多かったが、彼らの方が英語能力は高く、ショックを受けた。もっと英語を勉強しようという励みになった。

次に「事前準備、情報収集をしておく」ことだ。昔から行き当たりばったりの行動を起こすことが多かったが、今回もどこかへ出かけるときは他の仲間に頼りっぱなしだった。自分の行きたいところくらいは自分で情報収集をしておくべきだったと思う。

最後に、人の優しさをたくさん認識できたことだ。道を聞くことが多かったが、誰もが分かりやすいように教えてくれ、中には一緒に途中まで案内してくれた人もいた。人間関係の希薄化とも言われる時代だが、そんなこともないのではと思った。

英語だけでなく様々なものに気づくことができ、イギリスに行って本当に良かったと思う。

長期留学(交換留学) オクラホマ州立大学(アメリカ)
国際コミュニケーション学部3年 M.O.

私は今回の留学で知識を得ただけでなく、多くの経験も積んだことで、自身をより一層成長させることができた自信があります。授業や日常生活では、物事を多面的に捉え自分の意見を積極的に発信するよう努めました。そしてそうすることで相手とのコミュニケーションも円滑にいくことを学びました。また異文化に身を置くことによって、日本を客観視でき、自国の至らない点や誇るべき点に気づくことができました。視野や考え方が広がるとはどういうことか分からなかった私でしたが、実際に留学を経て、その意味を実感することができました。今後は広がった視野や柔軟な考え方を活かし、海外ボランティアなどに積極的に参加したいと考えています。そして引き続き、自国に誇りを持ち国際社会で活躍するために、懸命の努力をしていこうと思っています。



お知らせ

次の行事に参加を希望される方は、メールにて群馬県立女子大学外国語教育研究所 (flri-one@pref.gunma.lg.jp) へお申し込みください。なお、詳細については本学ホームページを御覧ください。

○明石塾公開

以下の日程で明石塾を公開します。

日時：平成27年11月7日(土) 午前の部 10時～12時、午後の部 13時半～15時半

場所：群馬県立女子大学 新館6階研修室

内容：午前：英語研修〔参観〕

(塾生による活動報告)

午後：講義〔参観〕 講師：野尻 彩加氏(明石塾7期生 外務省国際協力局)

○英語教育講演会

県内の小学校、中学校、高等学校、大学の先生方及び英語教育関係者に対して、英語教育における小中高大の連携について、その方策を具体的に考え模索する契機とするため、英語教育講演会を開催します。

日時：平成27年12月19日(土) 13時半～15時半

場所：群馬県立女子大学 新館6階研修室

講師：茂木 秀昭氏(都留文科大学文学部国際教育学科準備室教授)

発行：群馬県立女子大学外国語教育研究所

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

TEL：0270-65-8511(代) FAX：0270-65-9538 URL：http://www.gpwu.ac.jp/